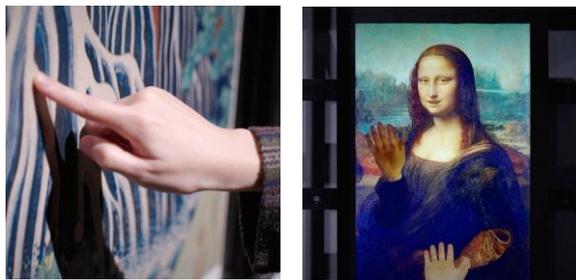


広告主名	八王子視覚障害者福祉協会	期間	2024年12月20日 ~ 2024年12月22日
施策名	ENTOUCHABLE MUSEUM—超さわれる美術館—	地域	関東

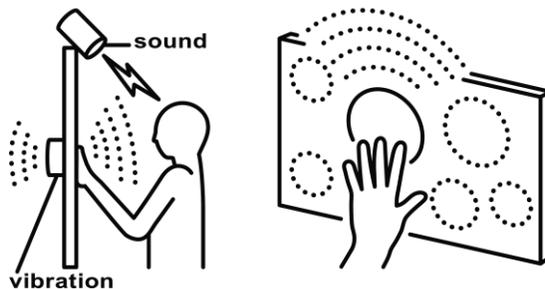
## 1. 施策の狙い

視覚障害者が絵画鑑賞において感じる体験格差を可視化・社会提起し、誰もが平等に芸術を楽しめる美術館のあり方を模索・実現すること。  
 “目で見えなくても絵を感じる”という新しい価値観を社会に提示する。



## 2. アプローチ手法

最先端のハプティクス技術（触覚フィードバック）を活用し、触れることで絵画の輪郭・質感・空間を“手”と“耳”で感じられる体験を創出。  
 視覚以外の感覚を使った絵画鑑賞という新しい鑑賞方法を提供した。



## 3. イノベティブなポイント

大きく下記4点がイノベティブなポイントである

- ①**触れる名画**：通常は「触れることができない」名画に、あえて触れるという逆転の発想。
- ②**多感覚体験**：触覚＋聴覚で絵画を“見る”という、視覚に頼らない鑑賞の再定義。
- ③**高い満足度**：視覚障害者の97.1%が満足し、実際の格差是正につながった証拠を提示。
- ④**社会提起性**：芸術体験のバリアに向き合い、“真のバリアフリー”を世の中に問いかけた。



## Problem

年に1度以上美術館を訪問する日本人全体の、  
絵画鑑賞体験の満足度についての調査があります。  
晴眼者の92.1%が満足していることと比較して、  
視覚障害者の満足度は僅か25.0%にとどまります。



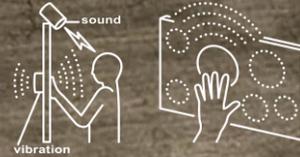
音声ガイドや点字ブロック等、  
施設のバリアフリー化が進んではいませんが、  
晴眼者と視覚障害者の絵画鑑賞体験の格差という根本的な問題は解決されておらず、万人に開かれたものにはなっていません。

そしてこの問題はまるで"触れてはいけない"もののように見過ごされています。

## Idea

この問題の解決へ向けて社会へ問題提起を行うために、  
"触れられる"体験が創出されました。  
視覚だけに頼らず、真に誰もが絵画鑑賞に満足できる場所、  
それがENTOUCHABLE MUSEUMです。

モナ・リザ等の有名絵画に触れることで、  
そこに何が描かれているのかを  
感じとれる鑑賞体験が、  
最先端のハプティクス技術を  
全面的に活用することで実現しました。



絵画に触れることによって振動の強弱を手で感じとったり、  
触れる場所によって様々な音や音を耳で聴きとることで、  
目で見ることなく絵画を"見る"ことができます。

## Results

ENTOUCHABLE MUSEUMを訪れた視覚障害者の  
97.1%が新しい絵画鑑賞体験に満足し、  
ソーシャルメディアでの916,000のリーチ獲得に加えて、  
アウンドメディアで6億8,600万以上のリーチを達成。  
体験格差改善のあり方について、社会へ提起できました。

これにより私たちは、真に誰にでも開かれた世界のあるべき姿を"見る"ことができました。



# ENTOUCHABLE MUSEUM

超さわれる美術館



97.1% の視覚障害者が  
新しい鑑賞体験に満足

916,000

ソーシャルメディア  
リーチ

+6億8,600万

アウンドメディア  
リーチ

CNET YAHOO! JAPAN NIKKEI @nifty ニュース JDN マイナビニュース Ledge.ai TRACY livedoor News EXCITE NEWS niconico IM XEXEQ muun Let's TOKYO ロボスタ Bay

